

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(津西高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	○ 高い知性と豊かな感性を備え、高い志と広い視野を持って、夢の実現に向け行動する、たくましい生徒の育成を目指す学校 ○ 豊かな人間性と社会性を持ち、社会の進展に主体的に対応して、国際社会、地域社会に貢献する生徒の育成を目指す学校
(2) 育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)【グラデュエーション・ポリシー】	○ 確かな学力と実践力を兼ね備えた生徒 ○ 物事の本質を明らかにしようとする強い探究心を持つ生徒 ○ 高い自己肯定感を有し、健全な心身を保持増進できる生徒
ありたい教職員の姿	目指す学校像の実現に向け組織的に取り組み、生徒とともに学び続ける教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	(生徒) ○ 学校生活の充実、学力向上と進路実現 (保護者) ○ 安全・安心な学習環境、学校生活の充実、進路実現 (地域) ○ 地域づくり人材の育成・教育	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 (中学校) ○ 学校情報・生徒情報の提供 (進学先) ○ 専門的研究に資する学力と探究心の育成 (地域) ○ 地域学習の推進	連携する相手への要望・期待 (中学校) ○ 基礎学力の定着、キャリア教育の充実、社会性の涵養 (進学先) ○ カリキュラムを中心とする大学情報の提供 (地域) ○ 探究活動に対する理解と支援
(3)前年度の学校関係者評価など	○ 西高の丁寧な学習指導、熱心な部活指導は、本当にありがたい。西高の伝統でもある。一方で、先生方の多忙の問題がある。特に部活動に携わって頂いている先生は、時間外労働時間がより長くなるのではないかと。校内の業務分担でなるべくバランスを取ってほしい。 ○ 西考、探究活動については、単年度でなく、2年、3年に引き継いで深め、さらに充実した取組になるように期待する。65歳以上のOBの力を借りていくことも検討頂ければと思う。 ○ 「探究」の中に「人権総合学習」を位置づけ、10の人権テーマを設定された取組は素晴らしかった。今後も続けていき、その活動を広めて頂くことを期待する。	

		○ 今の社会では、コーディネーターよりファシリテーターが求められている。良いファシリテーターを育てる教育をお願いしたい。
(4)現状と課題	教育活動	○ 生徒の多くが勉強と部活動の両立に努め、充実した学校生活を送っている。素直で真面目な生徒が多く、熱心で懇切丁寧な学習指導、進路指導の結果、多数の生徒が国公立大学に進学するなど進路実現を果たしている。 ○ 確かな学力を身につけ、高い志と広い視野を持ち、主体的に考え、行動する生徒を育成し、難関大学に合格できるよう生徒の可能性を引き出すことが求められる。
	学校運営等	○ 教職員は生徒一人ひとりの学力向上や豊かな人間性の育成のために、教科指導や進路指導、部活指導をはじめ様々な教育活動に前向きに取り組んでおり、それが生徒の進路実現や地域、中学校の評価につながっている。一方で教職員の働き方改革を進めることが課題である。 ○ 新しい学力観を視野に入れた高い志と広い視野を持った生徒の育成、社会でたくましく生き抜く力の育成、難関大学合格者増のための組織的取組について生徒のニーズに応え、進化させていくことが課題である。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・ 大学進学や大学での専門性に資する学力の定着を目指し、3年間を見通した計画的な学習活動を通じて学力向上を図る。 ・ 豊かな人間性の醸成とコミュニケーション力の向上に向けた教育活動を、教科教育をはじめとするすべてのカリキュラムにおいて展開する。 ・ 主体性の育成及び心身の健全な発達を目的として、課題研究を通じた社会での学び（探究活動）、部活動をはじめとする課外活動を充実させる。
学校運営等	・ 授業公開（保護者への授業アンケート）、授業相互見学（教員への授業アンケート）並びに生徒への授業アンケートを通じて、授業改善を推進する。 ・ 教職員が健康で意欲的に働くことができるよう、職場環境の整備、業務縮減（学校行事の見直し等）を進めるとともに、休暇が取得しやすい環境整備に取り組む。 ・ 教職員としての使命と職責の重さを認識するとともに、コンプライアンス意識の向上に向け取り組む。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・ 目標に向かってコツコツと積み上げる努力ができる生徒 ・ 好きなことに徹底して打ち込むことができる生徒 ・ あいさつをはじめとする基本的なコミュニケーションができる生徒
---------------------------------	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習活動	1 実践的学習活動 ① 探究活動 ② 津西SPP（サイエンスパートナーシッププログラム） ③ 津西GCP（グローバルチャレンジプロジェクト） 【活動指標】 ① 探究活動 1年生…（前半）身近な問題・社会問題探究 10h） （後半）人権学習（様々な人権課題 10h） 2年生…課題研究（地域創生、キャリア、学際 20h） ② SPP 三重大大学等の調査研究への参加（長期休業中3回） ③ GCP 英語圏への短期留学（夏季休業中ホームステイ10～14日間） エンパワーメントプログラムへの参加（夏季休業中1回） 【成果指標】 参加生徒の満足度80%以上 2 ICTを活用及び協働学習による授業実践 【活動指標】 全教員が実践 【成果指標】 生徒の授業満足度、80%（授業アンケート）	① 1、2年生の総合的な探究の時間を全教員体制で実施 ② 三重大大学との連携 ・工学部3分野 ・探究基礎講座 ③ オーストラリア語学研修実施 【活動指標】 ① 1年生（前半）10h 実施 （後半）10h 実施 2年生 20h 実施 ② 3回実施 ③ 短期留学30名参加 プログラム参加者なし 【成果指標】 ① 満足度 92.6% （R5 83.0%、R4 82.8%） ② アンケート実施せず ③ 満足度 96.75% 【活動指標】 全教員が実施 【成果指標】 87.0%	◎
キャリア教育	1 高い志と高い進路志望の実現に向けた取組 ① 個人面談 ② 外部講師による講演会 ③ 大学・学問研究 ④ 課外授業		◎

	⑤ 夏季課外授業 ⑥ 特別セミナー 【活動指標】 ① 3回／年（全学年） ② 3回／年（全学年） ③ 3回／年（1，2年生） ④ 4-5日／週（3年生） 5日／年（2年生） 5日／年（1年生） ⑤ 15日／年（全学年） ⑥ 2回／年（国際科学科1，2年生） 【成果指標】 ・ 国公立大学150名以上、難関大学20名以上、東大・京大の合格 2 探究活動の充実（上記「学習活動の1」による）	【活動指標】 ①年3回実施 ②年3回実施 ③年3回実施 ④週4-5日実施（3年生） 年5日実施（2年生） 年5日実施（1年生） ⑤年15日実施 ⑥年2回実施（夏期、新春） 【成果指標】 R6 現浪あわせて 国公立156名 難関大学18名 東大京大3名	
生徒指導	1 身だしなみ指導とあいさつ励行 【活動指標】 ① 生徒指導主事講話 3回／年 ② 登校指導 2回／週 ③ 頭髪服装指導 5回／年 【成果指標】 不適切な身だしなみ件数 5件以下／年 2 いじめの早期発見と対応 【活動指標】 ① 生徒会によるいじめ防止運動 2回／年 ② 生徒指導主事講話 3回／年 ③ 個人面談 3回／年 ④ いじめアンケート実施 3回／年 【成果指標】 いじめ重大事態 0件 3 人権感覚の醸成（命の大切さを学ぶ） 【活動指標】	【活動指標】 ①各学期の始めと終わりに3回実施 ②週2回実施 ③各学期の始めと終わりに実施 【成果指標】 5件以下 【活動指標】 ① 年2回、津駅でのいじめ防止活動と校内でのピンクシャツデーを実施 ②各学期の始めと終わりに3回実施。 ③年3回以上実施。 ④年3回実施 【成果指標】 いじめ重大事態1件 【活動指標】 ①10h実施	◎ ◎

	① 様々な人権問題に関する探究活動 10 h ② 関係機関等による出前授業 3 h／年 ③ 関係機関での体験学習 2 h／年 ④ 人権だよりの発行 3回／年 【成果指標】 探究活動事後アンケート（人権問題に対する理解が深まった、80％）	②3 h以上実施 ③2 h以上実施 ④5 回実施 【成果指標】 （人権アンケートより） ・取組が充実したものになった 97.9％	
健康の保持 増進に対する意識向上	1 心身の健康保持増進 【活動指標】 ① 外部専門家による講演会 1回／年 ② 個人面談 3回／年 ③ 保健だより発行 3回／年 【成果指標】 ・朝食をとる生徒の割合 90％ ・睡眠時間 6 h以上	【活動指標】 ①生徒向け3 回実施 教員向け1 回実施 ②1 年生 6 回実施 2 年生 4 回実施 3 年生 7 回実施 ③8 回実施 【成果指標】 （1 年生対象5 月調査より） ・朝食をとる生徒の割合 毎日 93.2％ 週3-4 日 5％ ・睡眠時間 6 h-7 h 36.7％ 7 h-8 h 30.3％ 8 h-9 h 7.2％ 9 h 以上 1.4％	
改善課題			
・欠席、遅刻数は減少したが、遠隔授業の利用が増えたこととの関係もある。病気や怪我、心のケアを必要とする生徒が自宅でも学習機会の保障として有効に活用されている。ただし、接続がうまくいかない場合や、画質・音質等、設備面での環境整備が必要である。 ・交通事故件数について、引き続き0 件を目指し、式や集会ごとに生徒指導主任から注意喚起を行っていく。自転車や歩行時のマナーについて、生徒が被害者にも加害者にもならないよう、常に意識させる。			

- ・津西 SPP については、夏休み前の事前学習と夏休み中の三重大学での実習が大きな柱となっている。継続的に、その後の進路選択にも影響を与えていく取組としていく。
- ・課題が多く、負担が大きいと感じる生徒が増えてきている。

(2)学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	1 授業力向上（ICT活用、協働学習の推進） 【活動指標】 ① 互見授業の実施 1回／年 ② 生徒に対する授業アンケート 2回／年 ③ 保護者に対する授業アンケート 2回／年 ④ 大学入試問題研究 1回／年 【成果指標】 学力の向上を実感した生徒、80%（授業アンケート） 2 生徒の進路実現に向けた戦略的会議 【活動指標】 ① 進路研修会 5回／年 ② 国際科学科にかかる運営委員会、学力検討委員会 3回／年 ③ 主任会議 10回／年	【活動指標】 ①1回 実施 ②2回 実施 ③3回 実施 ④1回 実施 【成果指標】 （7月学校生活満足度調査より） 1年 83.4% 2年 88.2% 3年 92.4% （2学期授業アンケートより） 平均91.4% 【活動指標】 ①5回 実施 ②3回 実施 ③5回 実施	
保護者・地域との連携	1 地域の中学校への出前授業 【活動指標】 3回／年 2 課題研究における地域人材活用 【活動指標】 ① 地域人材による出前授業 30講座／年 ② 地域での体験活動 10回／年	【活動指標】 3回以上実施 【活動指標】 ①30講座以上実施 ②10回以上実施	

	3 異校種連携 【活動指標】 地域の小学校での授業実践 3回／年 4 中学校訪問 【活動指標】 全中学校を訪問 2回／年 5 PTAとの連携事業 【活動指標】 進路研修会 5回／年 【成果指標】 本校の教育活動について満足している保護者、80% (保護者満足度アンケート)	【活動指標】 3回以上実施 (西が丘小学校) 授業見学2回 授業実践1回 【活動指標】 2回実施 (5月、10月) 【活動指標】 5回以上実施 【成果指標】 (11月保護者アンケートより) R6 93.0% (R5 92.6%) (R4 94.3%)	◎
働き方改革	1 教職員の総勤務時間の縮減 【活動指標】 ① 定時退校日の設定 1回／月 ② 部活動休養日の設定 1回／週 ③ 会議の時間短縮 60分以内85% 【成果指標】 ・ 時間外勤務時間が45h超の教職員0人 ・ 一人当たりの月平均時間外勤務時間30h以下 ・ 一人当たりの年次休暇・夏季休暇取得日数15日	【活動指標】 ①定時退校日の設定 1回/月 91.8% ②部活休養日の設定 1回/週 97.0% ③60分以内 89.2% 【成果指標】 ・ 時間外勤務時間 45H超 145人 ・ 一人当たり月平均時間 外勤務時間 28.1h ・ 1人当たり年休・夏季休 取得日数 14.9日	◎
コンプライアンスの遵守	1 教職員一人ひとりのコンプライアンス意識向上 【活動指標】 ① 「学校信頼向上委員会」の実施 3回 ② 研修会の実施 3回	【活動指標】 ①3回実施 ②3回実施	◎
改善課題			
・ 欠席連絡、保護者への連絡ツール「すぐーる」の活用が定着した。災害や不審者情報などの情報伝達もスムーズに行われ、保護者の満足度も高い。欠席連絡ツールとしては、データの活用ができるので、欠席、遅刻、早退等、記録の管理が一括して行えるようになった。			

- ・遠隔授業対応等、特別な支援を必要とする生徒は年々増加してきており、担任の負担が大きくなっている。担任をサポートする手立て、体制を作る必要がある。
- ・日々の業務多忙により、教職員の疲弊が心配される状況は続いている。今後も職場、労働環境の見直しや働き方改革を進めていく必要がある。

6 学校関係者評価

明らかにった 改善課題と次への 取組方向	・遠隔授業の取組により、学習保障はできるが、長期に渡る不登校の場合、状況の改善に繋がる取組にしていく必要がある。現在、中学校でも相当数の生徒が遠隔授業を受けており、今後も増えていく見通しがある。 ・子どもたちには、探究活動等、人との関わりを持つ活動を通じて、コミュニケーション力を身に付けるだけでなく、ファシリテイト力を身に付けてほしい。自己有用感を持つことで自信が付き、自身の進路を切り拓く力の醸成にもなる。 ・海外語学研修を含め、あらゆる学びが、その努力や向上を認めてあげられるような仕組みをお願いしたい。研修後にどう変わったかフィードバックできたらさらに良い取組になると思う。 ・わかりやすい授業も大事だが、わからないことに主体的に取り組む姿勢や力、価値観を育ててほしい。全部を教え込ませようとする、お互いが苦しい。丁寧すぎる授業、詳しすぎる授業は楽しくなくなってしまう。 ・生徒アンケートの問8「予習復習をしているか」の回答が、「ほとんどしない」の数値がやや上昇している。生徒が主体的に勉強に取り組む力を育ててほしい。 ・多くの部活動で、県大会で上位の成績を収めたり、東海大会に出場している。名ばかりの文武両道ではないことがよくわかる。先生方には、過重労働に繋がることではあるが、大変ありがたいと思っている。 ・課題の量については、一律の課題、みんな同じという課題では量を減らしても、全体として良い結果に繋がるとは考えにくい。
-------------------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	・来年度は、生徒理解のサポートツールとして、GPS－Academic の導入を検討している。個人面談での活用、生徒本人の強み、弱みの自己理解を深めるねらいがある。また、教員にとっても、1人ひとりの生徒にどんな力をつける必要があるか、多面的に生徒理解ができ、行事の精選にもデータを役立てることができる等のメリットが大きい。どのように活用していけるか未知数の部分もあるが、担任の業務負担の軽減にも繋がるのではないかと期待している。 ・津西 OB へ、サポートクルーに登録いただく呼び掛けをし、OB の協力体制の強化を図っている。主に探究活動での協力を依頼し、探究活動の更なる充実を図る。 ・生徒の自主性を高める課題の量や出し方等について引き続き改善に取り組む。まずは、教員が課題の量を正確に把握し、1日にこなせる量を調整する。
--------------------------	---

	その上で、教科ごとに提出時期をずらすなど、全体量としての調整を行う。 また、一律の課題ではなく、生徒が個々の需要に応じて、主体的に選択できるように設定する。 ・探究の経験をいかして、国公立の推薦入試も結果を出している。これからの国公立大の入試の方向性を見通し、生徒の進路の幅を広げていく。 ・現行の、発表へ繋げる探究の手法を用いた人権の取組は継続して行う。教育活動全体をとおして「命を大切にする教育」を充実し、一人ひとりが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」を推進する。
学校運営についての改善策	・教職員の総勤務時間縮減のため、以下の取組を行った。 ・昨年度、導入されたデジタル採点システム「百問繚乱」の活用により、教職員の採点業務が軽減された。加えて、今年度より選抜の採点についても、同システムの導入により、正確性と効率化が向上した。 ・学校全体の課題や新しい取組等を検討していく場として、戦略会議を継続的に行っていく。 ・部活動指導員等の外部人材の活用も、引き続き増やしたい。 ・スクールサポートスタッフの活用をさらに進める。印刷業務を始め、教職員の日々の業務をサポートしていく。 ・昨年度、設置した、教職員が多目的に使用するための「レクリエーションルーム」は、有効に活用されている。 ・担任業務を見直し業務の精選を図る。各学年団が組織的に動けるような体制づくりを行う。 ・来年度は、国際科学科の津西 SPP の取組について、抜本的な改革を図る。